

経営比較分析表（令和元年度決算）

栃木県 野木町

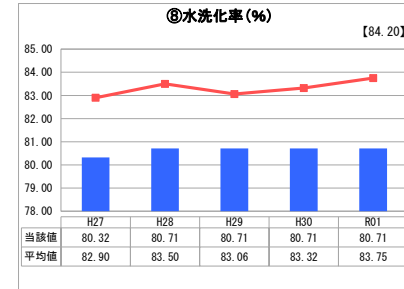
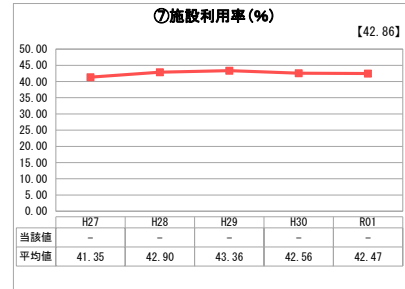
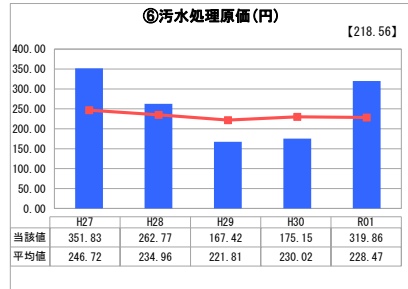
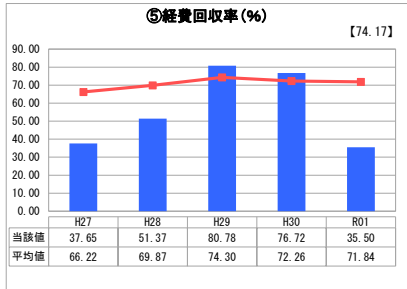
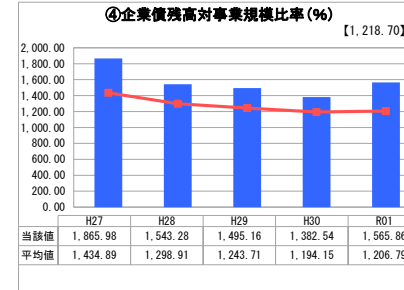
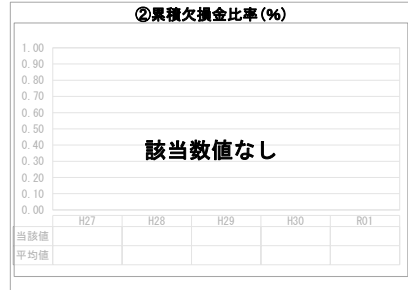
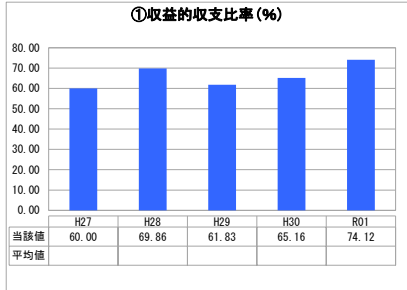
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.93	79.85	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,598	30.27	845.66
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,027	0.54	3,753.70

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
⇒100%未満であり使用料等自己財源のみの運営ができていない。一般会計からの繰入金に依存している状況である。

④企業債残高対事業規模比率
類似団体・全国平均よりも高い水準となっており、管渠の敷設はほぼ終了しているが、今後の老朽化による更新に備え、少しずつ規模を減らしていく必要がある。

⑤経費回収率
法適用に伴う打切決算により、決算に反映されていない当年度使用料があるため、例年よりさらに低くなっている。

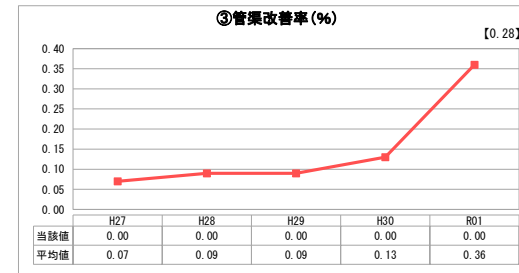
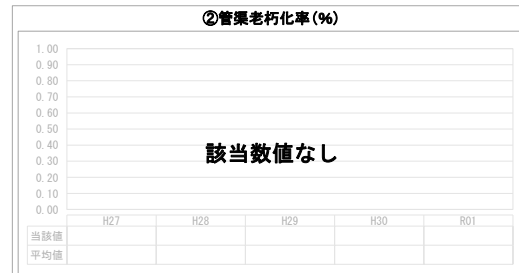
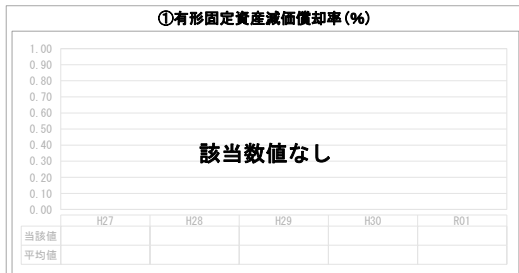
⑥汚水処理原価
過去5年分をみると、昨年度までは類似団体とほぼ同水準を推移していたが、R1年度については打切決算により、例年よりさらに高くなってしまっている。

⑧水洗化率
類似団体・全国平均よりも低くなってしまっている。管渠の敷設はほぼ終了していることから、未接続世帯への接続を引き続き促していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

本町の管渠は比較的新しい。そのため、今後は耐用年数を考慮しながら老朽化している箇所を計画的な修繕、更新が必要になってくる。

2. 老朽化の状況



全体総括

管渠の整備がほぼ完了しており、水洗化率向上も処理区内の人口が少ないため大きな収益の向上は望めない。

経費に関しては流域下水道による負担金が大部分であり、町単独での状況の改善が難しい。そのため、より効率的、計画的な経営に努め少しでもその他経費の削減を行っていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。